

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2773801085		
法人名	株式会社 フィールド		
事業所名	グループホームこころあい		
所在地	大阪府 羽曳野市 島泉 4-3-18		
自己評価作成日	平成 22年 4月 5日	評価結果市町村受理日	平成 22年 6月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2773801085&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 4月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家族的な雰囲気大切にし、入居者様にとってのやすらぎある我が家となるようなホーム作り。 ・三位一体(入居者様、家族様、職員)でのホーム作り。 ・地域密着型サービスとして、地域とのつながりを大切にし、家族介護教室を開催している。 ・市内の他のグループホームと交流し、介護フォーラムを開催し、認知症や高齢者介護に関する情報を提供している。 ・単独でのホーム運営に留まらず、法人内他ホームとの協力体制を構築している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人代表は家族の介護経験から「利用者の立場を尊重したグループホームの必要性」を実感し、利用者が最期まで安心して暮らせる家として、看取り介護を行うグループホームを設立しました。当初は自らが利用者の介護に携わり、現場実態を把握して運営するなど細やかな対応をしています。利用者の意向を大切に家族会を支援して意見を尊重している、職員の熱意と積極性を引き出している、家族介護教室やフォーラムを開催し地域貢献をしている、地域ふれあいネット推進事業に参画し交流を深めているなど、優れている点が多くあります。介護相談員を受け入れ利用者支援に生かし、また運営推進会議の意見を反映しているホームです。他にもホームを開設し連携しながら安定したサービスを提供しています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>当ホームの理念は「心豊かに安心ある暮らしを大切に愛と笑顔で共に歩む」であり、職員間はもちろんのこと、地域の福祉委員とも理念を共有している。また家族様への毎月のお便りにも掲載し、意見を頂く事で、一人ひとりが心豊かに安心ある生活を送れるように取り組んでいる。</p>	<p>「地域に開かれた地域のためのホーム作りを目指し、心豊かにその人らしい安心ある暮らしを大切に愛と笑顔で共に歩む」を理念とし、利用者が地域の中で最期までその人らしさを大切にしたい生活ができるように支援しています。理念はホーム内に多数掲示し、ホーム紹介パンフレット・「こころあい便り」への掲載など、機会あるごとに提示し共有しています。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>理念に掲げている「その人らしい」を大切に考え、なじみの店に買い物に行ったり、地域の福祉委員との花見や紅葉、小学校との交流会や運動会の見学、中学生の職場体験受入等の交流を通じ、地域の一員として繋がりをもてるように取り組んでいる。</p>	<p>居間の窓を開ければ小学校のグラウンドと小学生が通る通路があります。毎日のように学童が顔をのぞかせ、話をしていきます。隣にあるデイサービスセンターの職員や利用者とは会話をする機会もあります。学校との交流、地域行事への参加、散歩、買物など地域と交流する機会を設けています。AED（自動体外式除細動器）を自費購入し、地域のためにも活用できるようにしています。『こころあい通信』を3カ月に1回、近隣に配布しています。</p>	<p>ホームでは介護教室やフォーラム開催等を通じて、職員の力を生かした地域貢献をさらに推進する予定です。地域に情報を提供し地域の方々に参加していただくことで、さらに地域とのつきあいが深まることが期待されます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	家族介護教室、介護フォーラム、こころあい通信を通じ、認知症や高齢者の介護に関する情報提供や、相談会を行っている。また、地域住民との交流を通じ、認知症高齢者への理解を深めて頂けるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の近況報告、当ホームの取り組み等を報告し、参加者からの意見を頂き、職員には会議等で頂いた意見を報告し新たな取り組みやホームの運営に生かしている。	運営推進会議は2カ月に1回、年6回の開催をしています。ホームの年間活動・利用者状況、家族介護教室の開催、入居待機待ち状況、ヒヤリハット・事故報告集計結果、小学校との交流会、こころあい通信、外部評価結果等の報告を行い、意見交換をしています。会議で出された意見や助言は速やかにホーム運営に反映しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議だけではなく、相談や問題(苦情・事故)が生じた場合は、必ず連絡を行い、助言を頂いている。	市の担当者には日頃から相談したり、情報交換をしたりしています。人事異動で職員が交代する場合には事前報告をしています。外部評価結果は速やかに届け説明しています。介護保険事業者連絡会グループホーム部会や「ふれあいネット雅び推進事業」にも積極的に参画して、担当者と接する機会があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内の研修をとおり、理解を深め、言葉の使い方や、心情に関する事柄も含め、身体に限定しない「身体拘束をしないケア」に取り組んでいる。玄関の施錠に関しては、家族会の希望と建物の構造上施錠を行っている。	身体拘束や言葉での拘束を含めて「拘束しないケア」に取り組んでいます。また、職員研修を行い「拘束しないケア」についての理解を深めています。安全確保を重視した家族会の希望を尊重し、玄関はオートロックにしています。管理者を始め、職員は施錠をしないケアの意義については十分理解をしています。	鍵をかけないケアの実現に向けて引き続き検討することが期待されます。解錠する場合の安全確保については、地域の協力を重視し、運営推進会議の相談事項としてはいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の研修をとおり、理解を深め、言葉の使い方や、心情に関する事柄も含め、虐待防止に取り組んでいる。また、管理者、両棟主任が役割分担し定期的なヒヤリングを行うことで虐待防止への取り組みに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者家族様には、伝えているが、現在利用している人はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては今後の紛争を未然に防ぐ意味合いにおいても専門的な用語を使わず、項目ごとに詳しく分かりやすく説明をするように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの質の向上にも役立たせる意味合いで、民生委員の窓口や大阪府社会福祉協議会の苦情相談窓口の案内を玄関に掲示し、ホーム内でも苦情相談窓口を設け随時受け付けている。また家族会、運営推進会議、アンケート等を通し意見を頂き、些細なことでも言いやすい環境づくりを心掛けている。	家族会を年に2回開催し家族の意見を尊重しています。また、家族会の開催に向けてアンケートを実施し、まとめた意見を家族会で確認するなど、参加できない家族の意見も反映しています。利用者の意見は介護相談員訪問時にも聴き取ってもらい、ホーム運営に反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個別面談、アンケートを通じ職員の意見を把握、会議にて報告し反映させるようにしている。日常も毎月の定例会議やカンファにおいて意見を述べる機会を作り反映させている。	管理者は職員アンケートを実施し、年に2回の個別面談を行い、職員の希望や意見を聞いています。また、日常的に意見を出しやすい状況を作りながら、定例会議やカンファレンスの場で意見聴取しています。休暇や勤務体制についても個別の要件を尊重し、十分な配慮をしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成にあたり、事前に希望休暇を3日間聞いており、他にも個々人の諸事情に応じる勤務体制を整備している。 また、やりがいや向上心を持ってもらえるように、仕事への動機付けを説明し、自発性に結び付けるようにコーチングを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、定例会議での勉強会をはじめ、同法人内の新規 GH 立ち上げに伴う新職員の研修受け入れによるトレーニングに取り組んでいる。また、外部研修に関する情報を職員間で回覧している。働きながらの資格取得に関しても、シフトや金銭面での応援制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域独自のネットワーク「雅ネット」に参加しており、勉強会等の活動に参加している。その他、市の GH 部会があり、情報交換・共有をおこなっている。また、法人内他施設との交流研修を7月より開始する予定。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、職員は個別での入居者様のニーズを聞き出すよう心がけている。まず本人様の話を傾聴し、思いを受け止め安心して生活して頂けるよう努めている。また、月に1度市町村からの介護相談員の訪問も活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、職員は来所時等、個別で家族様のニーズを聞き出すよう心がけている。来所時に限らずお電話やお便りを通じ常に些細なことでも話していただけるような関係を構築できるよう努めている。また、年2回の家族会でも話し合う機会を持つようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に管理者、職員が、ご本人様や家族様とのコミュニケーションを重視し、要望を聞くことで必要な支援に対する情報を提供し、意向に添えるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様と共に生活しているという考えの基、入居者様の主体的な生活を支えるという立場で、掃除、洗濯、調理、買い物等を共に行っている。また、入居者様からの教えも大切に、支え合う関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様に対し、本人様の情報を良い事も悪い事も隠さず報告することで、常に職員と同じ情報を共有して頂き、家族様にも一緒に考えて頂き、意見を取り入れ、共にご本人様を支えるという関係を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>理念でもある「その人らしい」を大切に考え、本人様による人間関係の保持を重要視し、入居前のなじみの店に買い物に行く機会や入居前のなじみの人との交流の機会が遮断されることのないよう地域へ出ていく事で地域の方との関わりも継続できるよう支援している。</p>	<p>地域の催しや老人クラブへの参加、外食、散歩、買物の際にも馴染みの人に出会うことがあり、利用者に喜ばれています。職員は地域の方や友人が遊びに来られることを歓迎しています。利用者が電話をかけたたり年賀状を出したりされる場合にも援助をしています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者様同志の相性も踏まえ、良好な関係が保持できるように、落ち着ける居場所を確保し、コミュニケーションの困難な入居者様も職員が介入する等して孤立することなく良好な関係を築けるよう支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>出会ったご縁を大切にしており、退所された後も必要に応じて、家族様からのご意見・相談を受けることが出来るよう取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子観察を徹底し、本人様の希望を聞くことはもちろん、言葉にならない思いを感じるように努力し、職員間でのカンファレンスをはじめ、家族様からも情報を収集し、本人様本位であるよう努めている。	一人ひとりの意向を大切にするために、個別に意見や希望を聞いています。また、担当を決めて支援することで継続的で細やかな対応ができるように配慮しています。表情や行動から意向をくみ取り支援している方もあります。毎月1回、来訪される介護相談員に利用者の意向を聴取してもらい、支援に活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や、家族様の情報等からこれまでの生活背景の把握に努め、他施設からの入居に関しては、介護支援専門員等から情報収集し把握に努めている。また、可能な限りではあるが、日常の中でも本人様からのお話を聞かせて頂く事で、出来るだけ以前の生活に近づけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過去・現在の病歴を把握し、日々の様子観察や職員からの申し送り、カードックス把握、バイタル・行動・表情の変化を確認しながら、心身状態の把握に努めている。また、入居者様の可能性を職員側の支援で閉ざされてしまうことがない様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例カンファレンスの際のモニタリング、3カ月毎の居室担当によるモニタリングを行い、課題・ニーズの修正変更の有無確認を行ったうえで、現在6か月毎に、ケアプランの見直し・更新を行っている。また、体調変化や入・退院時等には、随時（本人様の状況に応じ、連携医の見解を基に、家族様の意向をふまえ）新しい介護計画書に反映させる様にしている。	利用者が入居されたら暫定プランを作成し、経過を見て介護計画を作成しています。介護計画は6か月ごとに見直し、毎月の定例会議で検討し必要な場合には家族の参加も得ています。作成時にはアセスメント、モニタリングを行い、計画が適切であるかどうかの確認をしています。利用者や家族の意向を大切にしながら計画作成に努め、家族の同意サインをもらっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子や言動、表情をありのまま記録する様にし、日々の申し送り等を含め情報共有を行っている。また、介護計画をふまえた日々の実践の中での、気づきや、変化等もカンファレンスで、情報交換し介護計画に反映させるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームは「居住系」の性質上、同じ地域密着型の小規模多機能と異なる部分があり、多機能化という視点では、難しいように思えるが、本人様、ご家族の希望に応じ、面会（好きな時間での）・外出（選挙・墓参り等）・外泊・居室への家族様の宿泊等もニーズに添うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型という位置付けにあり、行政及び福祉委員・民生委員・老人クラブの方々との、定期的な交流を持った上で、さらに地域の学生や、住民との直接的な、ふれあいの機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	開設当初よりの提携医による定期的受診(週1回)にて、日々の健康管理、定期的検査を行い、状態の安定に努めている。特変時には提携医の指示を仰ぎ、家族様にも直ちに報告させて頂いている。必要に応じて紹介状を書き、専門医療機関の受診を行っている。	本人や家族の希望に添ってかかりつけ医師が決められます。内科は提携医師の往診があり、緊急時には24時間対応が可能です。その他の専門外来についてはかかりつけ医療機関が無い場合、提携医師の紹介状を持参し受診しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の身体状況の把握により、気付いた点や気になる点等は、定期的訪問(週2回)時に、報告、相談し、指導を受けることで、早期対応、悪化防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の入院に際しては、入院期間中も面会による状況把握に努め、退院間近には、主治医をはじめ必要に応じて理学療法士等の専門職からも、指示や助言を頂き、退院後の日常生活上の留意事項の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、ご家族様、医師、管理者、（参加可能な状況であれば本人様含む）で今後の検討の話し合いの場を何度か設定し、最終的には、医師の見解と、家族様（本人様）の意向を確認したうえで、全職員で情報を共有し、看取り介護に取り組んでいる。 またGHは看取りが可能とされながら、医療的ニーズの充実に困難なこともあるため、連携医の助言に基づき、早期の段階より家族様への説明および了承を得ながら、必要に応じては他医療機関への調整をおこなっている。	ホーム案内パンフレットに看取り方針を明記し、入居契約時から終末期の支援を行う方針を説明しています。重度化した場合には家族の意向を尊重した支援を行いますが、必要な場合には医師の指示で入院されることもあります。ホームでは看取り介護をした経験があり、今後も利用者・家族の希望に添った看取り支援を行う方針です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による勉強会にて、応急手当や緊急時対応のシュミレーション等の訓練、緊急時対応ガイドライン、緊急連絡網の整備、周知徹底を図っている。また、ホームにAEDを設置し、全職員の普通救命講習(AED)の受講を支援している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを整備し全職員に通知し、避難経路の周知徹底を行っている。また、近隣周辺にも避難経路の説明や協力を依頼している。年に3回近隣周辺へ通知し、消防署の協力のもと、全入居者・職員で避難訓練を行い、マニュアルを改訂し、災害時対策に備えている。	地域や消防署と連携した災害時避難訓練を年に2回行っています。また、それ以外にも年に1回独自の避難訓練を行っています。訓練時には利用者全員に参加をしてもらっていますが、非常ベルの音に本番さながらに驚かれる利用者もおられ写真を撮影する余裕もないほどです。ホーム内にはスプリンクラーの設置をしています。	今後は地域の福祉委員の協力を得て、夜間など少人数の職員しかいない場合を想定した避難誘導訓練を行う予定です。また、消防署へのオンコールシステムの導入や、災害時非常食及び水の増量などを計画しています。今後は避難訓練の様子を写真等で残し、次回訓練等に活かしてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の誇りやプライバシー(排泄に関する声掛け、個人情報等含)を損ねない様に個々に応じた声掛けを行っている。また、勉強会においてもプライバシー保護を取り上げ、学ぶ機会を設け日々のケアに活かしている。	利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応をしています。誇りやプライバシーを損ねるような対応や言葉かけは見られません。また、オムツ等の置き場については極力目に触れないように配慮しています。個人情報保護についても職員へ徹底しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り希望に添える様に個々に希望を尋ね、いくつかの選択肢を示す事で、自己決定して頂ける様にしている。また、言葉による意思表示や、自己決定の困難な入居者様に対しても発語や動作、表情等を観察する事で意思をくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の個々の状態、希望を把握した上で、居室で過ごされたり、フロアで他者様と過ごされたり、それぞれ個々のペースに合わせた支援を行っている。また、生活リズムが崩れたり、刺激のない単調な生活にならない様、個人での買い物等の希望がある場合も、希望に添うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容をはじめ、月に1度は美容師に来て頂き、希望に応じた髪型にされたり、服装も場面に応じて、おしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、買い物、調理、盛り付け、後片付け等を入居者様と共に行い、食べる事だけではなく準備の段階から楽しんで頂ける様取り組んでいる。また、外食・出前にて好きなメニューを選んで頂いたり、誕生日会では、メニューを入居者様に考えて頂き、目の前で共に調理したり、ケーキ作りを行い、喜んで頂いている。	管理栄養士が作成したレシピと食材が委託業者から搬送され、職員と利用者はレシピに添って調理し配膳しています。下ごしらえをしたり、炒めたり、盛りつけたり、配膳したり、「いただきます」の挨拶を担当したり、利用者は得意な部分で力を発揮しています。おやつやケーキ作りでは、買物から取り組み楽しんでいきます。希望に添って外食を楽しむ日もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、食材提供会社より、カロリー計算されたメニューをホーム内で調理し、個々の食事形態に合わせた提供を行っている。水分補給に関しては、いつでも自由に飲んで頂ける様にしており、摂取量も記録し、15:00に中間計算し、1日最低でも1,000ccは摂取して頂けるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアのお声掛け・見守りをさせて頂き、自己にて困難な部分を介助させて頂いている。また週1回の歯科医師による往診時、歯科医による口腔ケアを受けられる等、歯科医の意見も反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、個々の排泄状況を把握し、排泄のお声掛け・誘導を行っている。また、失禁の軽減が図れる様、お声掛けの間隔や状況に配慮し、安易におむつを使用せず、出来るだけトイレで排泄して頂けるよう支援している。	おむつやパッドを極力使わない支援を心がけています。時間を見て、そっと声かけをするなどプライバシーに配慮した支援をしています。トイレでの排泄が成功していればおむつを外せる場合もあります。安心のためにおむつやパッドを使用されている利用者には就寝前に交換されるよう助言し、清潔を維持しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用のみに頼らず、水分摂取量の増量、乳酸製品の摂取、腹部マッサージ、腹部用湯たんぽの使用や体操等を行い、便座に座られた時にウォシュレットにて刺激する等、予防に努めている。それでも排便が見られない時は、看護師による、浣腸や摘便等で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	十分に見守り出来る安全な環境で、入浴して頂けるよう時間帯の配慮は行っているが、個々に入浴を楽しんで頂けるよう、入浴の順番や、温度、入浴剤等本人様の希望に添えるように努めている。	週3回の入浴ができるように支援しています。入浴日以外の日でも希望があればお風呂を用意します。入浴を好まれない場合でも、体調が良い場合にはしばらくして声かけをしてそれとなく入浴を勧めています。本人の希望を尊重し楽しく入浴できるよう配慮しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	個々の体調や、ニーズは毎日変 化するので、体調管理を重視し ながらも、出来るだけ本人様の希 望に添える様に取り組んでいる。 また、気持ちの昂りで眠れない 時等は、隣に寄り添い安心して 眠って頂けるよう取り組んでい る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	個々の薬状については全職員が 把握し、薬の変更・増減に関し ての把握もカードックスや申し 送りを通し周知徹底するよう努 めている。また、服薬後の状態 観察も怠らず、職員間で情報共 有し、医師・看護師に報告して いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	入居者様個々の習慣や、生活歴 を活かした役割等を職員側から 入居者様へ提案する形で入居者 様の意思を尊重するよう支援し ている。また、喫煙や買い物、 外出、出前、外食、ホーム内 のレクリエーション（行事含） 等においても、希望を反映出来 る様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の個々の身体的な状態を配慮し、いくつかのグループに分けて本人様の希望に沿って、外出（散歩や買い物）して頂けるよう配慮している。また、家族様の協力の下、選挙や墓参り、一時帰宅等の支援を行っている。	買物、外食、散歩など希望の場所に利用者全員が出掛けられるように、数回に分けて外出をしています。季節により変動はありますが、月に3～4回程度の外出記録があります。また、記録に残していないような「ちょっと数分外へ出てお散歩」という場合もあります。	外出の機会を確認するためにも、少しの間でも外へ出て散歩を楽しまれた場合など、今後は記録に残すことが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理に関しては、難しい事が多いので、多数の入居者様はホーム側で預らせて頂いているが、外出時の買い物での清算の際には、本人様にお支払いして頂ける様に支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人様の希望があれば、自由に電話や手紙のやり取りをして頂けるよう、お声掛けを行っている。また、毎年ご家族様への年賀状も出来る範囲で本人様直筆のものを郵送している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を配慮した上で、共用空間の壁に季節に応じた装飾や、各入居者様の思い出の写真を貼る等、和めるような雰囲気作りを心掛けている。また、食卓にも季節の花を飾る等、ホーム内でも季節を感じて頂けるよう心掛けている。共用空間の室温や湿度等にも配慮し、居心地良く過ごして頂けるよう努めている。	居間や食堂は調理をすれば美味しい匂いがするような家庭的な空間になっています。利用者はみんなが集う居間を好まれて、お昼寝も居間で横になれるようにソファや畳スペースなどを設けています。玄関、廊下は広く、トイレや浴室は使いやすく工夫しています。昼間は窓を少し開けて風を通し、空調に配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の椅子の他にも何箇所かにソファを配置し、フロア隣接の和室等、入居者様個人が好きな場所で、入居者様同士の会話を楽しみながら、過ごされる等、リラックスして頂ける空間づくりを心掛けている。2階にも、ソファセットを配置し、少人数でお茶を飲まれたり、くつろげる空間づくりを心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、入居者様が、ご自宅で使用されていた家具等を持ち込んで頂く事で、以前の生活との変化を最小限におさえ、家具の配置も本人様が混乱されない様配慮している。また、家族写真や思い出の物を飾る等し、本人様が居心地良く過ごせる空間づくりを心掛けている。	居室はどの部屋にも窓を設置し、採光や空調に配慮しています。ベッドやタンス、テレビや仏壇など、それぞれが使いなれた家具や器具を持って来られ、その人らしく特徴ある居室となっています。ベッドを置かず完全和室風の居室もあり、利用者の個性が発揮されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の介護計画を基に、生活意欲の向上に繋がる様な、お声掛けや役割を共有し、「その人らしい」を念頭に、入居者様の目線に合わせて、トイレや居室の場所を掲示する等、認識の混乱削減に努め、出来るだけ自己能力を活用して頂けるよう支援している。また、安全面においても危機管理委員会を通し、全職員で安全かつ自立支援に繋がる様な環境作りに取り組んでいる。		